2021年度　　事業報告書

特定非営利活動法人　かぷかぷ山のようちえん

1　事業の計画

1）親子自然体験事業（子どもゆめ基金助成）

①受益者人数目標

延べ参加者数　2000名/89回（前年度2326名/110回）

実績　　1315名/84回　こども10人以上⇒　8.4人　火・金曜を中心に大幅未達

⇒2022年度は火曜開催を中止。7月から土曜2回開催。

各回のこども参加者数10人以上を目標として、広報活動等を行う。

⇒4月実績こども(おとな15(9)+9(6)+4(5)+13(8)+15(6)+17(23)=総数130こども12.3人/回21人/回

②新型コロナウイルス感染症等対策

新型コロナウイルス感染症が拡大している時期の開催については、助成団体および開催場所（市立公園等）の指導に従い、実施判断する。感染防止ガイドラインは最新の情報を得ながら都度更新することを目標とした。

実績としては5月のみ緊急事態宣言で中止、それ以外は予定通り実施できた。

③重大事故目標ゼロ件

病院搬送を伴う事故をゼロとする。

・事故発生時、事故にあった参加者のケアを担当するスタッフ１名、事故対応の現場指揮に当たるスタッフ２名の体制を取れるよう、少なくとも3名のスタッフ体制を取る。

・原則として、スタッフが自身のこどもを同伴する場合は１名までとするとともに、スタッフのこどもを含めて、こども５名あたりスタッフ１名の体制を確保する。

・スタッフが不足し上記の体制を取れない時は、参加者人数を制限する、又は無理せず中止とする運営を徹底する。

・参加者のコンディションや活動におけるヒヤリハットなど参加者との積極的な情報共有に取り組む。

⇒病院搬送を伴う事故をゼロ　達成

④自然体験および異年齢活動の充実

異年齢交流の活発化、参加者の利便性の向上、担任となるスタッフの負担軽減等のため、クラス制度を廃止し、異年齢クラスとする。

各回を担当するリーダーはスタッフの輪番として負担が集中しないよう配慮するとともに、それぞれのスタッフのスキル向上のための研修等を実施し、より良いプログラムの開発・運営に取り組む。特に、乳児期からの継続参加者の成長や小学生の兄弟の参加も増えて、遊びの質が変化しているため、成長段階に即したプログラム作りに取り組む。

担任制の長所だった新規参加者等への個別フォローについては、各参加者の情報を共有しつつ、フォローに当たるスタッフを都度配置する。

⇒リーダー輪番、自然・心理・救急スタッフ研修実施　親子見守り会月1回の定期開催スタート

2）森のとしょかん事業（子どもゆめ基金助成）

①受益者人数目標

延べ参加者数　60名/2回　⇒実績　46名/5回

各回のこども参加者数15人以上を目標として、広報活動等を行う（詳細は４）③参照）。

⇒実績　受益者数未達

⇒　当初釜の淵公園で開催予定を、5月コロナ緊急事態宣言により駐車場閉鎖（わかくさ公園含む）のため、影響を受けづらい風の子太陽の子広場で実施。12－2月は寒く、新規参加者は初めてくる方が多く、迷ったりしていたようす

⇒2022年度継続、来やすさ優先で、市街地にあるわかくさ公園で試行する。

②新型コロナウイルス感染症等対策

新型コロナウイルス感染症が拡大している時期の開催については、助成団体および開催場所（市立公園等）の指導に従い、実施判断する。感染防止ガイドラインは最新の情報を得ながら都度更新する。

⇒5月は緊急事態宣言の為延期したが、9月以降予定通り実施できた。

③自然の中で遊ぶ、間口の広い場づくり

自然体験よりも参加しやすい場づくりとして、自然と一緒に絵本を楽しむ場「森のとしょかん」を試行する。参加費は無料とし、経費は全額助成とする。かぷかぷの通常の活動でも毎回2冊ほど絵本を読んでいてよい時間となっているため。かぷかぷの活動の中でよかった自然に関する本を中心に、わらべうたや工作も楽しみながら、森での時間を過ごす体験をしてもらう。静かにしていなければならない室内の図書館とは違い、森での読書の時間は、寝転がっても、おしゃべりしながらでも、のびのびと絵本と向き合う時間を楽しめる。泣いたり、大きな声を出したり動き回ったりしがちな乳幼児の親子でも、ほかの人に遠慮することなく、ゆったりとたくさんの絵本と過ごす時間を楽しむことで、絵本と一緒に、自然も好きになってもらうきっかけにしたい。9月、11月開催予定。

⇒12月・1月・3月にも追加開催した。普段の体験活動だと参加しない友人同士のグループ参加が散見された。

３）ふたご・きょうだい専任サポート制度事業（真如苑多摩地域市民活動助成）

受益者人数目標　延べ参加者数　36家族

親子自然活動では、原則としてこどもの見守りは親が行うこととしているが、親一人で見守りが難しいふたご・きょうだいでの参加者に対し、スタッフが専任でサポートする制度を開始する。本制度を担当するボランティアスタッフを育成し、ふたごやきょうだいと親ひとりの参加時の活動時に、野外活動をサポートし、積極的なコミュニケーションを担う。9月運用開始予定。

⇒実績　13家族(うち無償ボランティアによる実施6組)

サポーター制度については、想定利用者は保護者複数での参加が多くコロナの影響もあり予想より利用者が少なかったこと、利用の際の金銭負担、サポーターとの相性による心理的負担などから、利用が伸びなかった。

⇒サポーター制度は、少数ながらも来年度も利用要望があることから、制度は継続し、利用者負担の軽減に向けた環境を整備

４）年会員コミュニティ運営事業（真如苑多摩地域市民活動助成）

参加者間のコミュニケーションの活発化・深化を目的として、下記４つの取り組みを行うことで、自然の中で親子が健やかに育ちあえるコミュニティを育てる。

受益者人数目標　延べ参加者数　300名

・かぷかぷむらアウトドア部・てしごと部での課外活動の推進（昆虫採集・飼育、草木染など自然やてしごとに関係する参加者の自発的な活動・情報発信を行うオンライン活動、イベント開催の企画・サポート）

・はたけのおしゃべりひろば（年10回開催、活動拠点の畑における農作業とおしゃべりを中心とした会員交流と子育て相談の場）

・かぷかぷむらキャンプ（キャンプでの参加者間の交流と３）の制度への活動原資へのチャリティ実施）

・夜カフェ（年10回開催、zoomを用いた、こども寝かしつけ後の夜時間での会員交流と子育て相談・育児に関する学び合いの場）

実績　受益者数　300名⇒309名　で達成。

マルシェ・はたけ（兼フードパントリー)・キャンプは継続、

夜カフェは定期開催は終了。

・かぷかぷむらアウトドア部・てしごと部での課外活動の推進

てしごとマルシェ　72名　DIY柵ワークショップ　33名

・はたけのおしゃべりひろば　100名⇒51組118名（15回）

・かぷかぷむらキャンプ（サポート活動原資へチャリティ含む）

⇒34名 寄付18000円

・夜カフェ　100名⇒52名（12回）生活リズム違いで伸び悩み

5）団体運営

①スタッフ研修・体制強化

自然体験、乳幼児・保護者の心のケア、地域活動などの専門家による研修を実施し、スキルを高め、親子自然体験プログラム、コミュニティ運営にに反映していく。青梅さとやま産後ケア事業について、2022年度以降スタッフ体制も含めて検討していく。

・スタッフ研修：自然体験研修・臨床心理士研修（2回）・救急救命講習
　自己認知・対話、自然観察、野外活動支援スキルが向上した
・体制強化
　親子自然体験活動のリーダーを輪番制度に変更。スタッフ・ボランティア増加。
　ミッションビジョンの再策定を検討（2022年度にかけて）
・社会起業塾参加 [redacted] ：
　団体の存在意義、中長期の軸を改めて確認・支援者増（新理事・監事）
　　課題：負担感は個々に異なり、1名が3月に体調不良で急なお休みへ
　　⇒事務作業は事務局中心かつ分散できるところはする
　　⇒子育て当事者のためスタッフ代理は毎回確保
　　（そのためにOBOGを含めて協力者増の取り組み、新規でボランティア養成へ）

②財政基盤強化

助成以外の収入を確保し、用途を限定しない活動原資を得ていくため、活動に対する寄付を得やすくなる仕組みとしてサポーター制度の検討と運営に取り組む。支援者候補に対して営業活動を実施していくとともに、支援者管理システムの導入に向けた研修などを受講し、体制を整備する。

・寄付フォーム・システムを検討

③広報

ウェブ広報については、現在運営側による発信が主な内容となっているため、参加者へのインタビューなどを通じて、参加者の生の声を掲載していくなど、活動に共感を抱いてもらえる潜在者へのアプローチを強化する。近距離は地域連携を中心として、広報活動に力を入れていく。（写真は2019/4~2021/3のホームページ流入者数とアクセス数の変遷）

まず参加者アンケート定期実施を開始（秋～）。持ち物のことなど、普段の活動だけでは確認できない参加者さんの気持ちや様子を知ることができた。

④地域との連携

「青梅こども関連NPO協議会」にて、2021年度は副会長として、広報誌の発行事業の市民協働事業提案や、青梅こどもふれあいフェスタの運営など、地域でのこどもの居場所、健全育成に寄与する事業に団体の一員として共に取り組んでいく。

「青梅こども関連NPO協議会」は市長提言に向けて・フェスタの運営参加。
「自然とともに子どもの育ちを見守る場」トークセッションを青梅幼稚園・梨の木保育園・ころりん村幼児園とともに開催。子ども劇場西多摩さんやどろんこの森さんにも展示参加していただいた。参加者100名超。

2　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【3,785】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
親子自然体験事業（山のようちえん事業）	青梅の公園や私有地で季節の自然と暮らしに親しむ0歳からの親子自然体験活動 火・隔水・金・第3土曜　年間89回開催（長期休みは火・水はお休み） 子どもゆめ基金助成　91万円	2021年4月～2022年3月	青梅市の自然公園および私有地	7	未就学児親子	こども718名おとな583/89回	2,019
親子自然体験事業（森のとしょかん事業）	親子で屋外で絵本を読み、読み聞かせや工作を楽しみながら自然と本に親しむ活動を行う 年2回開催 子どもゆめ基金助成　6万円	2021年9月・11月	青梅市の自然公園および私有地	3	未就学児親子	46名/5回	132
親子自然体験事業（ふたご・きょうだい専任サポート制度事業）	ふたごやきょうだいと親一人でも自然体験を楽しめるサポートを受けられるボランティア育成と制度運営 真如苑多摩地域市民活動助成15万円	2021年9月～2022年3月	青梅市の自然公園および私有地	3	未就学児親子	39名/13回	115
親子自然体験事業（親子会員コミュニティ運営事業）	自然の中で親子が健やかに育ちあえるコミュニティの運営 真如苑多摩地域市民活動助成21万円（夜カフェ・はたけ）	2021年6月～2022年3月	青梅市の自然公園および私有地	3	未就学児親子	309名/21回	1,519

法人名：　特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえん

活動計算書

2021 年 4 月 1 日 から 2022 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費		2,096,197	
正会員受取会費	55,000		
親子会員受取会費	2,041,197		
2. 受取寄附金		64,875	
受取寄附金	64,875		
3. 受取助成金等		1,283,900	
受取民間助成金	1,283,900		
4. その他収益		1	
受取利息	1		
経常収益計			3,444,973
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
役員報酬	1,490,000		
人件費計	1,490,000		
(2)その他経費			
謝金	1,577,860		
印刷製本費	61,467		
通信運搬費	6,418		
消耗品費	384,509		
地代家賃	16,500		
諸会費	10,000		
研修費	20,000		
支払手数料	100		
雑費	1,000		
事業支出(おやつ費)	217,835		
その他経費計	2,295,689		
事業費計		3,785,689	
2. 管理費			
(1)人件費			
法定福利費	145,684		
人件費計	145,684		
(2)その他経費			
通信運搬費	60,992		
修繕費	100,000		
保険料	66,940		
諸会費	46,000		
租税公課	600		
支払手数料	4,435		
その他経費計	278,967		
管理費計		424,651	
経常費用計			4,210,340
当期正味財産増減額			△ 765,367
前期繰越正味財産額			1,529,891
次期繰越正味財産額			764,524

法人名：　特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえん

貸借対照表

2022 年 3 月 31 日 現在

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	969,513		
未収金	201,774		
流動資産合計		1,171,287	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,171,287
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	238,613		
預り金	9,826		
役員借入金	158,324		
流動負債合計		406,763	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			406,763
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,529,891	
当期正味財産増減額		△ 765,367	
正味財産合計			764,524
負債及び正味財産合計			1,171,287

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日　2017年12月12日最終改正　NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1)　棚卸資産の評価方法

該当する資産はありません。

(2)　固定資産の減価償却の方法

20万円以上の資産は固定資産として計上します。

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(3)　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

法人名：　特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえん

財産目録

2022 年 3 月 31 日 現在

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
ゆうちょ	929,438		
みずほ(法人)(API)	40,075		
流動資産合計		**1,171,287**	
2. 固定資産			
固定資産合計		**0**	
資産合計			**1,171,287**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
役員報酬(3月分)	111,040		
事業支出(消耗品・印刷費等立替分)	92,807		
事業支出(おやつ立替3月分)	34,766		
預り金			
源泉所得税	9,826		
役員借入金			
理事1名	158,324		
流動負債合計		**406,763**	
2. 固定負債			
固定負債合計		**0**	
負債合計			**406,763**
正味財産			**764,524**

書式第１８号（法第２８条関係）

事業報告用

年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえん

1　確認事項（法第２０条及び第２１条を確認の上、チェックを入れてください。）

☑以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第２０条関係）
☑各役員について、親族の規定に違反していません。（法第２１条関係）

2　役員一覧

	役名 どちらかに○	(フリガナ) 氏名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
1	理事	ｶﾜｻｷﾖｼﾔｽ 川崎由保		無	
2	理事	ｻｶﾀﾀﾞｲｽｹ 坂田大輔		無	
3	理事	ﾐﾔｶﾞﾜﾏｷｺ 宮川真樹子		無	
4	理事	ｵｶﾞﾜｶﾅｴ 小川佳那恵		有	代表理事
5	理事	ｵｶﾞﾜｻﾄｼ 小川聡志		無	
6	監事	ﾅｶﾖｸﾀｶﾉﾘ 中能孝則		無	

書式第４号（法第１０条・第２８条関係）

設立・事業報告用

社員名簿（社員のうち１０人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえん

	氏　　名	[redacted]
1	小川　佳那惠	
2	神戸　留美	
3	宮川　真樹子	
4	中能　孝則	
5	坂田大輔	
6	小川　聡志	
7	杉　盛明	
8	杉　恵美子	
9	安井万寿美	
10	川崎由保	
11		

監査報告書

令和　4年　5月20日

特定非営利活動法人　かぷかぷ山のようちえん
理事長　小川　佳那恵　殿

税理士法人　小澤会計事務所
代表社員税理士　小澤　英喜 [redacted]

私は、特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえんの令和３会計年度（令和３年４月１日から令和４年３月３１日まで）の2021年度事業報告書、2022年度事業計画書、財務諸表の注記、活動計算書、貸借対照表及び財産目録について決算監査を行いました。

監査の結果、上記の書類が、NPO法人会計基準に準拠しており、特定非営利活動法人かぷかぷ山のようちえんの令和３会計年度の収支及び事業活動の状況並びに同会計年度末日現在の財政状態をすべての重要な点においていずれも適正に表示されかつ正確であることを認めます。

以上のとおり、報告します。